



**TNC**  
**通信**

2014  
2月号

## 「中国語講座」も新年好!

1月11日から勉強会が開始(写真は講師・横山さん、幹事・小出さん)。現在、中国の笑話をもとに基本的な会話を実践。皆さん、更に飛躍の一年にと真剣な学習でした。(N)



◎富ヶ丘公民館  
◎毎週・土曜日の午後1～3時  
◎1回・500円

## 仙台・北京便が3月再開に

日中関係に影響される仙台と中国の定期路線だが、3月下旬に上海経由の北京便が再開する見通しとなった。これは中国国際航空で、3月30日から10月25日の毎週水曜日の1往復ずつ。これを機に文化・経済の交流が進み、南方航空の長春便が再開される道が開かれるよう望みたい。

## 「富谷町新年祝賀会」に出席

1月5日、富谷スポーツセンターで新年祝賀会が行われ富谷日中として水戸、斎藤、水戸憲さんが出席しました。若生町長の挨拶や5万1千名目となる千葉さんへの記念品授与もありました。



また富谷をホームとする宮城初のチャレンジリーグ「仙台ベルフィーユ」の諸隈監督らメンバーが招待されていました。チームは9名と少数。その一人である王亜辰選手と懇談できました。王さんは北京出身、身長188cmでチーム一。No.6。日本語も上手。リーグは3月末まで続きますが、機会があればお呼びできればいいですね。富谷スポーツセンターでの試合は2月22日、23日です。皆さん、応援よろしく!(S)

## 続・午年の蘊蓄(うんちく)

「馬」に関する中国のことわざ。

「路遥知馬力、日久見人心」(lu yao zhi mali ri jiu jian renxin) 長い道に乗ってみれば馬の力が分かり、久しく交際してみれば、その人の心がわかってくる——元代の演劇『恩返しを争う』的一幕。

「一言既出、駟馬難追」(yiyan jichu sima nanzhui) 一度言ってしまったことは、たとえ四頭立ての馬車でも追いつくことはできない——春秋末期、孔子の『論語』顔淵篇。

## 中国の家庭料理を楽しみましょう

〈材料〉

ニンニクの茎 1束(4cmくらいに切る)  
ネギ 1/2本(みじん切り)  
むきエビ(大) 1袋  
豚肉細切100g(1cmくらいに切る)  
赤パプリカ 半個(細切り)  
片栗粉 50g  
サラダ油 300cc

〈味付け〉

しょう油 大さじ1  
塩 小さじ1 ゴマ油少々



### 〈ニンニクの茎とエビの炒め5～6人分〉

- ① エビを片栗粉にまぶし、揚げておく
- ② ネギを炒め、柔らかくなったら豚肉を加え、肉に火が通るまで炒める
- ③ 更にニンニクの茎と赤パプリカの細切りを入れ、中火で炒める
- ④ ニンニクが柔らかくなったら①を加え味付けし、仕上げにゴマ油で味を整える。

## 「新春の集い」に集おう!

〈日時〉2月16日(日) 14時～16時

〈会場〉富谷町・町上会館

〈会費〉500円とゲーム用の景品1品

今月の  
一冊

「日中反目の連鎖を断とう 北京大学講義録」(浅野勝人著、NHK出版、1680円)

ここにも日中間を憂う人がいる。著者はNHK記者として日中の政治家を見、また元外務副大臣としての経歴もある。北京大学生へのシリーズ講義は毎回、300名の教室が一杯に。一貫して「歴史問題に関する論争の繰り返しを断ち切ることに尽きる。過去に学んで現在を正し、未来に生かそう」との語らいが“人気じいちゃん”として評価されたのであろう。1年10か月7回の内容をそのままの語りでまとめ、学生の感想レポートも記されており、一方通行ではない現場の声が参考になる。

内容は「総論」として両国の未来を、そして具体的課題として「安保・外交政策」「経済政策」「嫌中論」「公害問題」「歴史教育」「中国古典に学ぶ」等から構成され多方面の資料からの論点は読みごたえがあり、確かである。“近隣外交が何とかならないか”とは、等しく思うこと。アウェーでの講義は「厳しい時こそ、双方の共同の努力で、友好の絆を世々代々と受け継ぎたい」との情熱が伝わってくる。

日中双方の、特に青年が、この“講義”に触れてほしい。田中・大平や周恩来・鄧小平など先人の知恵と努力をあらためて知るとともに、新たな課題に向き合い解決していくために、真摯に学び、そして創造的に前進させてほしいと感じた。(Y)